



2004年度防災教育チャレンジプラン

# 2004年度 防災教育チャレンジプラン

## 伊豆半島沖地震から学ぶ ～今、そしてこれからの防災～



地域自主防災訓練

平成 17 年 2 月 27 日(日)

みなみなか  
静岡県南伊豆町立南中小学校



2004年度防災教育チャレンジプラン





1 研究のねらい

本校の総合的な学習の時間は、「とびだせ！みなみのへ」を学校のテーマとし、ひと・もの・こととのかかわりを大切にしていこうという確認のもとで取り組んでいる。

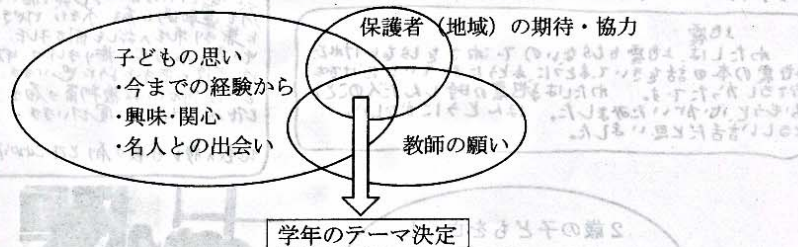
平成15・16年度、5・6年生は「中木の地震から学ぼう」をテーマに取り組んだ。被害の大きかった地域が学区内であること、体験者が身近に大勢いること、郷土館、役場や図書館にも資料があることなどから、多様な活動が展開でき、活動が広がっていくのではないかと考えた。「自ら考えて行動する」「進んで何かをしよう」ということが苦手な傾向にある子どもたちが、与えられた活動でなく、自分なりの課題を見つけ、追究していく姿を願って研究することにした。

本校の総合的な学習の時間の捉え方

① 総合的な学習でつきたい力

- 「ひと・もの・こと」と自分とのかかわりの中から課題を見つける力
- 課題を追究し、解決する力
- 表現する力

② テーマ決定までの考え方



2 研究内容

第5学年の実践「中木の地震から学ぼう」

(1) テーマ決定までの経過

4月当初、やってみたいこと、調べてみたいことを子どもたちに聞いてみた。子どもたちから出された意見は「青野川にすむ生物」「学校の周りの鳥や木」「生き物を飼う」「南伊豆を探検する」など子どもたちの興味は自然に向けられていた。そこで、自然以外のいろいろな課題があることを紹介し、しばらく様子を見ることにした。

30年前に南伊豆町で起こった地震をきっかけに年間を通した活動を考えたが、地震というテーマは、子どもたちにとって、難しいものなので、どのように投げかけていたらよいか思案した。教師からの一方的な投げかけでなく、子どもたちから課題が生まれてくることを期待し、4月の避難訓練のとき、学活で地震について取り上げた。このとき、子どもたちが地震について知っていたのは、「山崩れがおこる」「停電になる」「断水する」といったことだった。そこで、昭和49年の伊豆半島沖地震のことを話し、当時の中学生の文集「大地は裂けて」を紹介した。文集を通して子どもたちは、地震による想像を絶するような被害や、身近な人を失った悲しみなどを知った。翌日、実際に子どもの父母が経験していたり、祖母を亡くしていたり、中木に慰霊碑があることなど、家の人から聞いてきたことで話が発展していった。「地震のことを調べたらどうかな？」という案が出され、教師からも投げかけたところ、みんなの意見がまとまり、この学習がスタートすることになった。

学区である中木地区が大きな被害を受けているので、子どもたちにとって身近なできごとであること、いろいろな学習形態が考えられること、年間を通して取り組める課題であることからこのテーマが決定した。











### ③ 中木訪問

中木では、当時、消防団長として活躍された方に現地を案内していただいた。崩れた山や公園の慰霊碑を見学し、地震発生時の生々しい様子や救助活動の大変さなど貴重な体験談をうかがった。

依頼やお礼をするとき、国語で学習した「依頼の手紙・お礼の手紙」を生かして、実際に手紙を出すことができた。また、校外へ出かけるときには、気をつけることを話し合い、自分たちで決めた約束を守って校外学習を進めることができた。



崩れた山を見学する

### 仲木へ行こう

#### 感想

自分の大切な家族をなくした人なのに、今は明るくて楽しい人でした。みんなの前ではそうなのかなと思いました。大切な人をなくしてもそれ以上にかんがると、山口さんは言っていました。とても強い人だと思いました。山口さんが話してくれた色々なことを、とぼえたいと思いました。山口さんに会って、色々なことを聞いてみたいです。

### 「自分の課題を追及しよう」

#### ④ 調べてみよう

1学期に全体で活動を進めてきたことをきっかけに、2学期は課題別のグループに分かれて、課題追及を行った。初めは教師に頼ることが多く、どのように進めていったらいいのか戸惑う場面もあったが、必要な資料を図書館から借りてきたり、家でインターネットを使って調べたり、自主的な活動に広がっていった。

新聞やテレビで地震の報道を知ると、教室でも話題にのぼるようになった。9月末に北海道で地震が起きたときには、登校前の朝のニュースを見て、多くの子どもが情報を得ており、黒板に日本地図を書き、知っている情報を書き加えるなど、関心も深まってきた。調べたいこと、まとめたいことがあると、放課後残って活動する子どもも出てきた。

#### Aグループ(4人)「地震の前ぶれ・東海地震に備えて」

自宅から地震の本を持ってくる子ども、家のインターネットで調べてくる子どもが出てきた。前ぶれが分かれば、今後の地震に役立つのでは・・・と考え、調べていたが、自分たちが調べたたくさん前ぶれの情報は確かなものではないことが分かったようだ。今後起こる確立が高いと言われている東海地震について、調べたことをみんなに伝えたいと、熱心にまとめた。

#### Bグループ(5人)「日本はなぜ地震が多いのか」

そもそも、地震はなぜ起きるのか?という疑問から調べ、日本に地震が多い理由にたどりついた。資料をそのまま使うのではなく、難しく書かれた説明を分かりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考えて、まとめることができた。放課後も残って調べていく熱心な姿も見られた。







**Cグループ(7人) 「町や学校の対策—電気や水は大丈夫?—」**

自分たちの学校は、もしものとき大丈夫なのだろうか? 食料や水はどうなっているのか? また、町ではどんな対策をとっているのか? という疑問を調べた。リーダーとなって活動する子どもがいないグループで、なかなか行動できずに悩むことも多かった。町役場へ出かけ教わった「自分の命は自分で守る・自分の地域はみんなを守る」という言葉が印象に残ったようで、帰ってきてから学級のみんなにも教えていた。



**Dグループ(5人) 「他の大きな地震について」**

子どもたちが知っていた地震以外に、大昔から数多くの地震が起きていることを知り、日本の地震の歴史に驚いていた。「ぼくたちが生まれてからの地震にしぼってまとめよう。」と、「生まれてからの地震」と「今年起きた地震」の2つに分かれてまとめる工夫をした。

グループでの課題追究のまとめとして、学級での発表会を行い、友達の学習してきたことにも目を向けることができた。

**「みんなでやってみよう」**

**⑤起震車体験・液状化実験**

子どもたちから出てきた課題の中で「起震車体験」「液状化実験」など全体で取り組みたいものについては、学級全体の活動として取り入れることにした。これらについては、行政センターの方にGTとしてお願いした。阪神淡路大震災のときのボランティア活動の経験談もあり、子どもたちは強い関心を示し、積極的に質問した。

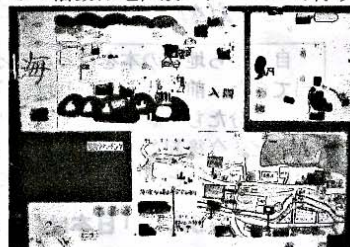


液状化の実験

**⑥ 防災マップをつくらう**

どんな地図をつくりたいのか、そのためには、事前にどんな活動が必要か話し合い、活動を進めていった。「自分の住んでいるところをかきたい。」「通学路を調べたい。」「探検に行ってみよう。」「いろいろな意見が出され、この活動は地区別のグループで行うことになった。

「防災ウォッチング」では、通学路や自分の家の周りが安全かどうかと調べ、ノートに書き込んだり、写真を撮ったりし、自分の目で見てきた情報を生かして地図づくりを行った。この防災ウォッチングは、授業時間外の自主的な活動だったが、家の人や友達と一緒に意欲的に活動できた。















平成16年度 総合的な学習の時間年間計画 (5年) テーマ「ミニ防災プランをつくろう～伊豆半島沖地震から学んで～」

(ねらい)  
自分たちの住んでいる町で起きた地震について調べる。  
自分たちの課題を見つけ、友達と活動する中で学びを深めていく。  
学んだことをミニ防災プランにまとめ、全校や地域に向けて発信する。

主な活動	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	30年前の地震について話し合い	伊豆半島沖地震について調べよう	郷土館で調べよう	地震調査隊 前伊豆の姿態を調査しよう	話し合い 調査結果から	一人暮らしをしているお年寄りの家族	ふれあいを通して学ぼう	自分たちでできること	ミニ防災プランをつくろう	みんなに伝えよう	
指導者	鈴木美穂子先生 (体験談)	鈴木美穂子先生 (体験談)	郷土館 依頼の手紙、お札の手紙	地歴調査隊 前伊豆の姿態を調査しよう	話し合い 調査結果から	一人暮らしをしているお年寄りの家族	ふれあいを通して学ぼう	自分たちでできること	ミニ防災プランをつくろう	みんなに伝えよう	
協力者		鈴木美穂子先生 (体験談)	郷土館 依頼の手紙、お札の手紙	地歴調査隊 前伊豆の姿態を調査しよう	話し合い 調査結果から	一人暮らしをしているお年寄りの家族	ふれあいを通して学ぼう	自分たちでできること	ミニ防災プランをつくろう	みんなに伝えよう	
区		鈴木美穂子先生 (体験談)	郷土館 依頼の手紙、お札の手紙	地歴調査隊 前伊豆の姿態を調査しよう	話し合い 調査結果から	一人暮らしをしているお年寄りの家族	ふれあいを通して学ぼう	自分たちでできること	ミニ防災プランをつくろう	みんなに伝えよう	
備考		鈴木美穂子先生 (体験談)	郷土館 依頼の手紙、お札の手紙	地歴調査隊 前伊豆の姿態を調査しよう	話し合い 調査結果から	一人暮らしをしているお年寄りの家族	ふれあいを通して学ぼう	自分たちでできること	ミニ防災プランをつくろう	みんなに伝えよう	







平成16年度 総合的な学習の時間年間計画 (6年) テーマ「伊豆半島沖地震から学ぶ ～わたしたちと地震～」

(ねらい)
・伊豆半島沖地震(仲木地震)を出発点として、地域の子どもたちへのインパクトコミュニケーションやアイディアドワークの学習を通して、地震発生時の対応や防災意識の向上を図る。
・伊豆半島沖地震(仲木地震)を出発点として、地域の子どもたちへのインパクトコミュニケーションやアイディアドワークの学習を通して、地震発生時の対応や防災意識の向上を図る。

主な活動	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
★年間のテーマを決めよう	○ 仲木地震について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい	○ 被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい ・被害状況を詳しく調べたい ・被災した地域について調べたい
関連教科	図画	図画	図画	図画	図画	図画	図画	図画	図画	図画	図画	図画
指導者	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家
協力者	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家	伊豆半島沖地震(仲木地震)の専門家
反省	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい	① 地域について調べたい ② 被災した地域について調べたい ③ 被害状況を詳しく調べたい
備考												







### 防災教育②



「赤ちゃんはおじいちゃんが好きでね、この日もおじいちゃんとお掛けの途中に土砂崩れに巻き込まれたの。土の中から見つかった時もおじいちゃんもしっかり抱きかかえていて、赤ちゃんの顔はきれいだったわ」

昨年10月、「昔のことを教えてほしい」と自宅を訪ねてきた静岡県南伊豆町立南中小(石田博之校長、148人)の児童4人に、長男と義父を一度に亡くした50歳代の主婦が涙ぐみながら語った。74年5月に発生した伊豆半島沖地震(マグニチュード6.9)。当時の新聞や写真を見返しながら話す姿に、児童たちも涙をこらえながら聴き入った。



30年前の地震による土砂崩れで、2歳の赤ちゃんを亡くした主婦から話を聞く児童ら(南中小提供)

メモ 南中小で今年2月に行われた防災訓練は、児童たちの学習成果を生かして内容が以前とは一新された。かつては地震を想定した避難と保護者への引き渡しだけだったが、地元消防署の協力を得て起震車や煙の中を逃げるスモーク体験、救命救急の実演などを実施した。地震の液化化実験なども盛り込んだ。

石田校長は「身近な出来事だからこそ、児童たちが興味を持つ。学校の伝統として、地域防災の充実につながる授業を目標したい」と語る。【中村牧生】(原則として木曜朝刊に掲載)

## 身近な体験を聞き学ぶ

人が命を落としたと思うと、悲しくなりました」と話した。

南中小は、6年生の「総合的な学習」の時間に、伊豆半島沖地震を題材にした防災教育に取り組んでいる。きっかけは01年4月、同町立南伊豆中の生徒たちが地震発生直後につづいた文集「大地は裂けて」が復刊されたことだった。

南伊豆町は震度5の揺れに襲われたことだった。一静かな入江に囲まれた小さな村が一瞬の間に地獄のようにならなくなった。文集は被害の模様を生々しく伝える。「地震の教訓が風化している」と感じた当時の同中教務主任、渡辺安之さん(71)が復刊し、地域の家庭や小中学校に配った。

授業はこの文集を児童に読ませるところから始まる。さあ、家族や親せきに当時のことを尋ね、当時の新聞などが残る郷土館で調べる。地区ごとの班に分かれて体験者の話も聞きに行

ね、当時の新聞などが残る郷土館で調べる。地区ごとの班に分かれて体験者の話も聞きに行

授業の効果は家庭でも表れ、地震への備えにも一役買っている。藤田さんは家の非常用持ち出し袋を点検し、携帯用ポリタンクがないことを指摘して、懐中電灯の電池が切れているのを見つけた。母親の藤田満美子(39)は「固定していない家具のどこも指摘され、早速付けました。子供から言われればやらなければと思いません」と話した。

